



源流

since 1881



学祖高木兼寛の
思いをつなぐ

学校法人 慈恵大学

理念の継承

全人的な医療を
実践するという
学祖の理念

東京慈恵会医科大学の前身は学祖・高木兼寛が開設した成医会講習所である。時代と共に医療・医学の在り方が変化するなか、本学は質の高い医師と看護師を育成し、病んでいる臓器に捉われることなく、患者の心の痛みも理解する全人的な医療を実践し続けてきた。

これまで、関東大震災、第二次世界大戦で校舎が壊滅的な被害を受けるなど、幾多の危機に直面するも、この学祖の理念は、教職員と同窓の母校愛に支えられ、途絶えることなく、脈々と受け継がれてきた。



Since 1881

学校法人 慈恵大学

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

<http://www.jikei.ac.jp/>

慈恵の医療



https://www.hosp.jikei.ac.jp/jikei/keyword_01.html

建学の精神

病気を診ずして
病人を診よ

高木兼寛

貧しい病者を救うために
患者の側にたつ全人的医療

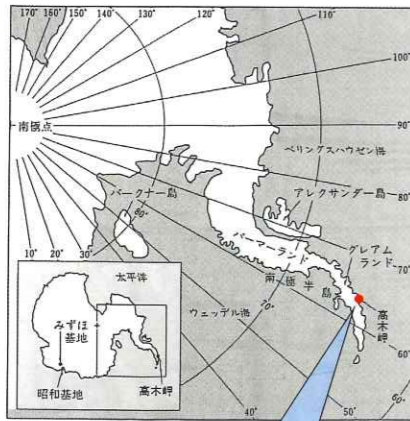
東京慈恵会医科大学の源流は、学祖高木兼寛が明治8年から5年間、海軍生徒として学んだ英国での留学にはじまる。英国で、人道主義や博愛主義の強い影響を受け、帰国後日本の医学会に「患者を研究材料とみる医風から、患者を病に悩む人間とみる医風へ」という新風をもたらした。その思想が現在の「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神に受け継がれている。

功績

これまでの功績を讃えられ
南極大陸に「高木岬」と命名される

ビタミン研究の開拓者
学祖 高木兼寛

学祖・高木兼寛は、「ビタミン研究の開拓者」として日欧米においても高い評価を受け、昭和34(1959)年には、英国の南極地名委員会によって南極大陸に「高木岬」という地名がつけられた。



学祖

日本医学会の改革を目指す
病者の側にたつ全人的医療



高木兼寛

Kanehiro Takaki

生誕 1849年10月30日
死没 1920年4月13日 (70歳)

学祖 高木兼寛は、明治8年(1875)から5年間、海軍生徒として英国セント・トーマス病院医学校に学び、この学校のように権威のある医学校をいずれは日本につくってみたいと考えた。しかし、帰国後、当時の明治政府のドイツ医学採用の方針による、急激な、しかも好ましくない医療業界の変貌に気づき、より健全な英国医学の萌芽を日本の土壌に育成する必要があると痛感した。そこで、帰国早々、現在の慈恵大学の前身ともなる成医会講習所なる医育機関を創設した。



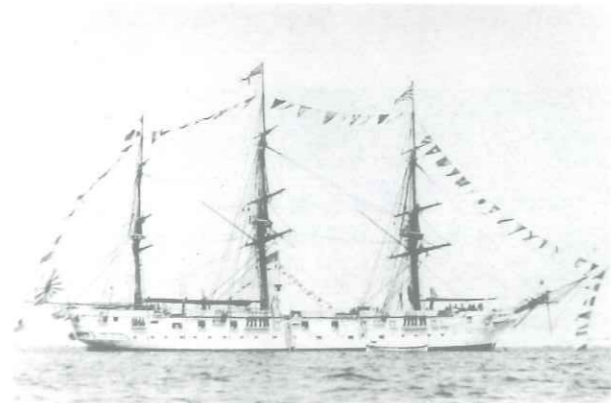
セント・トーマス病院医学校

信念

遠洋航海実験から
脚気を完全に駆逐することに成功する

「医学は実学であり、何よりも病気の予防・治療のためのもの」という信念を遺憾なく発揮

まだ脚気に対するビタミン学説はなく、伝染病説が支配的であった当時、学祖は2隻の軍艦を使った壮大な遠洋航海実験から、栄養欠陥説を掲げ、それによって脚気を完全に駆逐することに成功した。学祖はこの実験において、従来の白米食に変わり改善食を摂らせて、同じコース、同じ時間をかけて航海させた。その結果、白米食の水兵からは半数近い170人ものが脚気にかかり、多くの死亡者が出たのに対し、改善食を摂った水兵からは1人の患者も出なかった。



脚気の遠洋航海実験(筑波艦)

建学

明治14年(1881)5月1日
東京慈恵会医科大学の前身
「成医会講習所」を開設

学祖と松山棟庵は18名の医師とともに、日本の貧弱な医療環境の改善を目指す学術団体「成医会」を発足(明治14年1月7日)させた。



成医会講習所跡の
記念碑
東京都中央区銀座4-4-1

患者中心の医師を育成する成医会講習所

さらに成医会では医師を育てる活動の一環として常に患者と接することができる病院が不可欠だと考え、成医会講習所が開設された。当時、学祖の念頭には、貧しい人々が診療を受けることができる施療病院があった。

明治15年(1882)
日本で最初の民間慈善病院「有志共立東京病院」開院

設立趣意 「貧乏であるために治療の時期を失したり、手を施すことなく、いたずらに苦しみにさらされている者を救うこと」



有志共立東京病院の趣意は、学祖が英国留学中に深く影響を受けた人道主義や博愛主義に基づいている。また、同病院の資金は有志の拠金によるものであり、有志共立という名はそのためであった。

医学教育の場として役割を果たす有志共立東京病院

有志共立東京病院は、慈善病院のほかに医学教育の場としても重要な役割をはたしていた。成医会講習所や海軍軍医学校の実習病院の役割を担ったのである。これは、英国で経験した慈善病院と医学校の関係を東京に実現しようとしたものである。

明治18年(1885)10月
有志共立東京病院看護婦教育所創設

有志共立東京病院は、明治17年(1884)4月に病院総長としては有栖川威仁親王を戴き、正式に開院し、同年6月、翌年11月には、皇室・貴族などによる婦人慈善会が、2度にわたって鹿鳴館でバザーを行った。その収益金によって明治18年に日本初の看護婦教育所である「有志共立東京病院看護婦教育所」が設立された。この看護婦教育所が現在の慈恵看護専門学校の前身となっている。



看護婦教育所建物(明治19年1月20日)



日本で最初の看護師教育機関となる看護婦教育所の設立にあたり、アメリカ合衆国から指導者として招かれた看護師M.E.リード女史



「慈恵」の名を冠した
病院が誕生

東京慈恵医院病棟

明治20年(1887)に入ると、皇室との関係はますます深まり、皇后陛下の御意向によって病院名は4月1日に「東京慈恵医院」と改称された。これに伴い、幹事長に有栖川宮親王妃薫子殿下が就任し、明治20年(1887)5月9日には、皇后陛下のご臨席を仰いで東京慈恵医院の開院式が行われた。

東京慈恵医院医学校設立

海軍医務局学舎との共棲が続いていた成医会講習所が、新しく校舎を手当てして明治23年(1890)8月に「成医学校」の名で最初の生徒募集を行い、翌明治24年9月には、東京慈恵医院に附属する教育機関として「東京慈恵医院医学校」と改称された。



明治26年卒業生
前列中央は学祖 高木校長